

会 報 <<第400号 第1編>>

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



発行日 平成31年 2月 1日

会報 400号記念特集（1）

<<目 次>>

【第1編】

- I 会報400号を迎えて (一社)兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳 …2頁
- II 会報400号記念 特別寄稿 …3～5頁
『アメリカ西海岸紀行～花と緑のまちづくりの視点～』
兵庫県参与(花と緑のまちづくり推進担当)
(公財)兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター技術顧問
石原 憲一郎氏
- III 兵庫県政150周年協賛事業講演会『兵庫津の歴史を語る』講演概要報告

講演 1 『兵庫津歴史探訪』 …6～10頁
よみがえる兵庫津連絡協議会 歴史ソムリエ 高松 良和氏

講演 2 『高田屋嘉兵衛翁と兵庫津』 …11～14頁
高田屋嘉兵衛翁顕彰会 相談役 高田 耕作氏
- IV 広報コーナー 初代兵庫県庁舎ナビ 兵庫県神戸県民センター …15頁

【第2編】

- V 平成31年新春会員交流会(第462回月例会併催) 開催報告 …別冊
挨拶、受章報告、祝辞、祝賀演奏、乾杯、交流会、謝辞
- VI 寄 稿 神戸秘話第19回『人間の善意への信頼 吉川幸次郎に学ぶ孔子の教え』
(一社)兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳
- VII 再度山界限と空海(神戸市立森林植物園～再度山・大龍寺)
- VIII お知らせ
行事案内、事務局だより
広報コーナー(総合資格、住宅再建共済制度)



会報 400 号を迎えて

会 長 瀬戸本 淳

兵庫県建築会が発足した昭和 22 年の干支は亥（いのしし）でした。それから 72 年、会報 400 号の記念誌を発刊できた今年、平成 31 年も同じ亥年にあたります。新たな節目を皆様と共に迎えることができましたこと、本当にありがたく思っています。

また平素より、井戸知事様をはじめ、会員各位、特別会員各位、関係団体の皆様からも玉稿を賜り、会報誌にいつも華を添えていただいておりますことを、心より感謝いたしております。

昭和 60 年に、はがき方式で復刊された会報誌は、29 年に亘り続けられました。平成 26 年の第 344 号から現在のメール配信による発行方式になりましたが、近年、誌面がますます拡大、充実しています。谷専務理事の日々のたゆみない努力に敬服いたしておるところですが、おかげ様で、会員間の情報の共有・交換の場として、とても重要でかつ楽しいコミュニケーションの場として位置づけがされています。

兵庫県建築会は、長年「環境共生とまちづくり」をテーマとしてまいりました。この度、会報 400 号を記念して石原憲一郎先生に「花と緑のまちづくりの視点」と題して、特別寄稿をお願いいたしました。先生のこのすばらしい「グリーンインフラ」に対する思い、提言をいただき、兵庫県建築会も、これからの骨子にしなければならないと考えているところです。

グリーンインフラは「単なる快適なイメージ」から「まちの生活者の生活していくための根幹なす必須の要素であるという考え方」であることがよくわかりました。今や「グリーンインフラをつくるべきか？」ではなく、「いかにして、どのようにグリーンインフラをつくるか？」の時代に入っているに違いありません。やっていかなければならないことは、数多くあるでしょうが、あらゆる場が「グリーンインフラによる弾力的な変化」で、質の高いデザインと人々の想像力と幸福が行き交う十字路、高密な場として活気づけられ、ここに住みたいという欲望を駆り立てられるような場になっていくという貴重なお話をいただきました。大事な提言をいただき、ほんとうにありがとうございました。

私たちは知識と経験を基礎として、地域の安全安心、まちの魅力の創造、建築文化の発展に寄与していかなければなりません。これからも皆様とコミュニケーションを深め、異業種交流の場である兵庫県建築会が、大いに発展していくことを祈っています。

今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

II 会報400号記念 特別寄稿

『アメリカ西海岸紀行～花と緑のまちづくりの視点～』
兵庫県参与（花と緑のまちづくり推進担当）
（公財）兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター技術顧問
石原 憲一郎氏

兵庫県建築会の会報が400回を迎えられたこと、誠におめでとうございます。会報は、会員間のコミュニケーションを図る上で極めて重要なもので、これまでの継続的な取り組みに衷心より敬意を表するとともに、その記念号に私のライフワークである「花と緑のまちづくり」についての寄稿を瀬戸本会長から直々の依頼を受け大変光栄に思います。

この度、兵庫県と米国・ワシントン州が友好提携55周年を迎えるにあたり、2018年7月27日、井戸知事を代表とする友好代表団のうち県民交流団の一員として同行し、共同声明調印式等公式行事に参加するとともに、ワシントン州シアトル市、カリフォルニア州サンフランシスコ市、ロスアンゼルス市、アナハイム市を県民交流団で訪れました。また、団体行動の後、一行と分かれて1人でオレゴン州ポートランド市に出掛けてきました。

その中で、特に、今後の建築やまちづくりの展開に参考となるもので印象に残ったことをご紹介します。

◎ワシントン州と兵庫県と姉妹提携55周年記念式典&レセプション

訪問団は、知事を代表とする友好代表団が、議会訪問団、経済交流団、県民交流団など7団体とともに総勢約70名でワシントン州を訪問しました。式典&レセプションは、州都であるオリンピア市にあるワシントン州議事堂や知事公邸で厳粛のうちにも和やかに行われ、ワシントン州ジェイ・ロバート・インスリー知事ほか政府関係者や州議会関係者など約150名の参列者が揃いました。

調印式に併せて姉妹都市学生交換プログラムでオリンピア市を訪問中の加東市の中学生・高校生やオリンピア市のサウスベイ小学校の合唱もあり大変盛り上がりました。両知事、両議会議長とともに、「地域の課題は世界の課題、世界の課題は地域の課題」という共通認識のもと、今後の経済・文化・観光・防災・環境など幅広い分野での強い絆と交流の強化を確認するなど、未来志向に満ち溢れた素晴らしい記念行事でした。



1 兵庫県知事とワシントン州知事との調印式



2 ワシントン州議事堂と知事公邸

◎シアトル市 AmazonSphere & AmazonGo

シアトル市は、全米の中でも力強い経済成長と人口が増加し続ける注目の都市です。航空・宇宙産業のボーイング社のほか、マイクロソフト社、スターバックス社、アマゾン社など世界的企業が立地し、経済を牽引していますが、特に、近年、アマゾン社の存在は大きく、アマゾン社の企業城下町とさえ言われているようです。

今回、アマゾン社本社の一 corner にあるドーム「社員用ワークスペース AmazonSphere」と「無人レジなしコンビニエンスストア amazon go」を見学することができました。特に、筆者は、熱帯植物約4万本の植物に囲まれたドーム型の職場環境に驚き、感銘を受けました。

近年、高ストレス社会の影響か、精神疾患に悩む労働者が増加しています。このため、雇用者側としても、働き方改革の一つとして職場環境の改善に取り組む傾向が強くなっています。

実は、わが国でもワークスペースに植物を導入

し、植物の力を活用したリラクゼーション空間としての環境改善が行われ始めているようです。兵庫県立淡路景観園芸学校園芸療法課程では、某IT企業からの受託研究も行っており、ストレス緩和、仕事の能率向上等改善効果を探っているとのこと

今回、世界的企業のアマゾン社において、その実践の現場を見ることができ、今後の方向に向けた大きな一歩を確認いたしました。



3 Amazon社: ワーキングルーム(シアトル市)



4 Amazon go : キャッシュレス店舗

◎ポートランド市 Green infrastructure

オレゴン州ポートランド市は、人口約62万人と全米では中規模の都市ですが、LRTなど公共交通機関中心で街路樹や緑地も多く環境に優しい都市として有名で、最近では、全米で最も住みやすいまち(Livable City)として評価されており、他地域からの移住はもちろん、その先進的まちづくり施策やまちの様子を体現したいと世界中から視察や観光客が絶えません。

もちろん、ナイキ社、インテル社、コロンビア社など世界的企業も立地し経済成長力も大きいです。また、全米有数の素晴らしい日本庭園やバラ園、さらに、毎年6月のローズフェスティバルも魅力的です。我が国の国土政策で目指すコンパクトシティのモデル都市です。

ポートランド市は、過去の成長型都市開発等の

教訓に学び、グリーンシティを目標と掲げ、都市開発と自然保護の境界線アーバン・グロス・バウンダリー(Urban Growth Boundary)を市民との協議の上設定し、極めて厳格な土地利用区分・規制をもとに環境配慮型のまちづくりを行っています。

また、ポートランドのダウンタウンは、街区の大きさが一辺約61mの正方形の格子状(マンハッタン地区は274m×80m)と他都市と比べて小さくコミュニティが生まれやすいのも特徴です。(不動産的には、角地が多くなり評価が上がるので有利とか)



*劇場空間・・・接道の建物1階部分は、全面、ガラス窓とし、歩道、街路樹、道路の側道までを劇場空間と位置づけ、パラソルやカフェテラス、花鉢等により賑わい空間とする。

5 ポートランド市内循環のLRTと劇場空間

さらに、中心部を流れるウィラメット川の氾濫対策としての雨水管理対策として、30年前から、都市再開発など都市の更新にあたり雨水管理の方法の一つとして屋上緑化や緑地帯による雨水の一次的貯留・浸透機能を高める計画を市民と協議を図りながら進めてきました。さらに、個人の庭においても、雨の庭(rain garden)導入などへの市の助成措置も充実し全市挙げて安全・安心のまちづくりに取り組んでいます。

また、都市施設の老朽化に伴う再生にあたって、「グレーインフラ(Gray infrastructure)からグリーンインフラ(Green infrastructure)」への合言葉で多く改築が進められています。

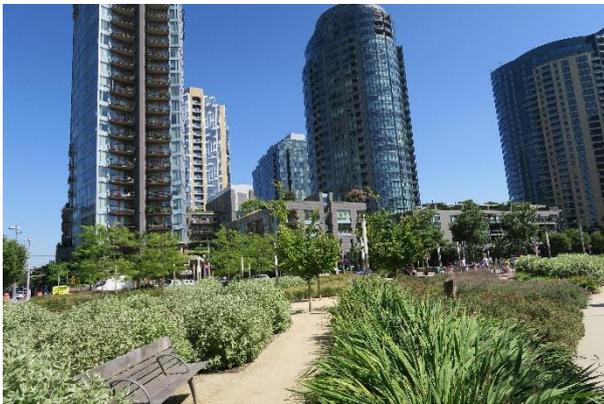
現在では、グリーンインフラは、単に雨水貯留効果にとどまらず、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の確保、美しいランドスケープなどまちづくりの骨格を果たす考え方としてとらえており、様々な便益を市民に与えており、ポートランド市は全米有数の住みやすい街として成長し続けてます。

近年、我が国においても地球温暖化の影響か、時間降雨量が80mmとか100mmという驚異的な雨量を記録するようになり、十分な内水排除ができないまま局地的ですが下水管からの吹き出

しや小河川の洪水による浸水で低地の道路が大きく冠水したり、山の鉄砲水による土砂災害で多数の尊い人命や家屋損壊等財産の流失が頻繁に起こるようになってきました。

こうした防災上の視点だけでなく、わが国でも、防災・減災、地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献、良好な景観形等への対応の一つとして、「グリーンインフラ」という考え方の重要性が指摘され、2015年度に閣議決定された国土形成計画、第四次社会資本整備重点計画で、グリーンインフラの取り組みを推進することが盛り込まれました。

グリーンインフラとは、自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用と定義づけられています。



6 ポートランド市パール地区再開発地区



7 ポートランド市ターナーズプリングパーク

我が国では、既に、都市計画の中で「緑の基本計画」を各自治体が立案することになっており、その中で各公共事業全体を俯瞰してそれぞれの分野が協力して計画に取り込めば、必然的にグリーンインフラの構図が出来上がるという装置は、既にあるのですが、残念ながら、行政の縦割り組織の弊害か、現実には、担当部局である公園緑地を中心とした計画に留まっています。

兵庫県でも、今後、常態化することが指摘されている厳しい気象変化を踏まえ、都市開発や道路・河川・下水道などインフラ整備、さらに、森林開発保全など相互に連携し、ポートランド市のグリーンインフラへの取り組みを参考として行くべきです。

現在、兵庫県下で都市の緑化に大きな効果を発揮している「県民緑税による県民まちなみ緑化事業」の防災的視点でグリーンインフラへの対応を検討すべき必要性を感じました。



8 ポートランド日本庭園（作庭：戸野琢磨）に最近完成した隈研吾設計の建築物
「ポートランドインターナショナル ジャパニーズガーデントレーニングセンター」

◎おわりに

これまで記述してきた先進的取組は、よくよく過去を振り返ってみれば、職場環境への植物の導入は、長い間、「貸植木」という形で、職場に、熱帯観葉植物が定期的に取り換えられていたことを思い出す方がおられるでしょう。現に、兵庫県庁でも、今でも、一部の職場に植物が置かれ定期的に交換されています。

今後、職場における人間のストレスを軽減するという科学的な視点での実証実験（エビデンス）の結果も踏まえて、早急に職場環境の改善に取り組むべきです。

また、グリーンインフラも、前述のとおり、既に施策として根付いている「緑の基本計画」等の既往の制度を、行政的に統合化・総合化していく視点があれば、実現できるものです。

「振り返れば未来」

「無いものねだりから、あるもの探し」

結論としては、なにも諸外国に学ばなくても、これまで先達の残してくれた仕組みや成果を、現在や未来の社会問題に応じてリ・オーガナイズし、総合化して、選択と集中で施策の立案することが重要であると認識するものです。

Ⅲ 兵庫県政150周年協賛事業講演会 講演概要報告

『兵庫津の歴史を語る』

会 場 兵庫津歴史館 岡方倶楽部 (神戸市兵庫区本町)

開催日 平成30年11月15日(木) 14時～16時30分



講演1 『兵庫津歴史探訪』

講師 よみがえる兵庫津連絡協議会
歴史ソムリエ 高松 良和氏



兵庫県政 150 周年記念事業講演会についての会報第 398 号(平成 30 年 12 月)の開催報告に続き、講演の概要を報告します。

◎ 講演会の開催趣旨

(趣旨) 1868年に兵庫県が兵庫津に開設され、本年7月12日(新暦)には150周年を迎えました。

この兵庫津は、古来より大輪田泊と称して、水運の拠点として繁栄し、平清盛が日宋貿易の拠点として、また、江戸の末期には開港場として外国貿易の拠点として整備が進められてきました。日本海から瀬戸内にまたがる大県兵庫の成立経緯として、この兵庫津・神戸港の存在が重要な位置を占めています。

兵庫県150周年を迎えるに当たり、意外と知られていない兵庫県にとっての兵庫津の歴史的な意義を知る機会とするため講演会を開催しました。

◎開催概要

1 共催、後援等

共催：兵庫県建築設計監理協会

後援：よみがえる兵庫津連絡協議会

(公財) 兵庫県芸術文化協会

(一社) 兵庫県建設業協会

(公社) 兵庫県建築士会

(一社) 兵庫県建築士事務所協会

(公社) 日本建築家協会近畿支部兵庫地域会

2 来場者 約120人

講演会の行われた兵庫津歴史館岡方倶楽部



はじめに

歴史ソムリエの高松でございます。

本日の講師依頼の際、聴講の方は歴史に詳しい人が来られるとのことでしたので、その覚悟でお話をさせていただきます。

ただ、兵庫の1300年の歴史を60分に縮めてお話ししますので、説明不足があるかと思っておりますので予めご了承ください。

ここ兵庫津の史跡は、ほとんど太平洋戦争で消滅し、平清盛に関わる書物もなくなっています。説明を通して何百年前かの兵庫の歴史をイメージし、光景を思い浮かべていただければ幸いです。

1. 兵庫県の設立

今年は明治維新から150年目となりますが、その明治維新の最中に「兵庫県」が設立された。慶応4年5月23日、新暦では1868年7月12日で、全国で最も早くできた県である。

元号が「明治」となったのが慶応4年9月6日、「廃藩置県」は明治4年であり、それらよりも以前に「兵庫県」は設立された。この理由は、徳川幕府の政権返上に伴い、徳川为天領であった兵庫津は、最初に新政府の領地になり、そこを治める行政組織を設置する必要があり、ここに「兵庫県」が誕生した。

当時の主な出来事を時系列に並べると次のとお

りとなる。

慶応3年10月14日 大政奉還
慶応3年11月15日 坂本龍馬暗殺
慶応3年12月7日 神戸港開港
(1868年1月1日)
慶応3年12月9日「王政復古」の宣言
慶応4年1月3日～6日鳥羽伏見の戦い

そして、慶応4年1月11日に岡山藩によるフランス兵無礼打ちの「神戸事件」が勃発する。1か月前に開港したばかりで、5カ国の軍艦が停泊しており、それらとの戦争の恐れが生じた。

この日に、たまたま兵庫に来ていた伊藤俊輔(博文)にその折衝役が命ぜられ、1月15日に外国の代表団を集め調整を果たした。その時に英文で書かれた王政復古の宣言を外国の代表に公布し、国際的な王政復古の宣言が行われたのは神戸だと主張しているが、王政復古の英文で書かれた宣言書は残念ながら見つかっていない。

このように、非常に慌ただしく慶応4年が明けていき、5月に兵庫県が設立され、伊藤俊輔、後の伊藤博文が、初代の県知事に任命される。

当時の兵庫県は、昔の石高で6万6,000石程度が第一次兵庫県のエリアで、兵庫津・神戸港が国際的に大変重要な港であり、そこを独立した行政府として統括するという意味で設置された。

ただ、内務卿の大久保利通は、神戸港を管轄する兵庫県の規模を大きくする必要から、第二次兵庫県、明治9年の第三次兵庫県と拡大し、現在の「兵庫県」となった。

2. 大輪田泊

以上が兵庫県の成立過程だが、もともとここは「大輪田泊」という地名であった。この名は、西暦700年頃の書類に出てくる。

薬師寺の僧・行基は、「摂津五泊」と呼ばれる船泊を摂津と播磨で5カ所を整備した。東から「河尻泊」(武庫川周辺)、大輪田泊、魚住、韓の泊、室生泊となる。

奈良時代、船は小さく、航海術も劣り、航海は昼間のみで、夜は安全に船を泊める「泊(とまり)」が各地に整備された。

兵庫津は大輪田泊が西暦700年頃に整備されて以来1300年の歴史となる。

泊ができて約100年位後、平安時代に入り、804年に第4回の遣唐使がここから中国へ船出し、最澄、空海が渡海する。

神戸には空海縁の地名として「再度山」「修法が原」「摩耶山」がある。

最澄は帰国時に地元の住民を集めて説法をされ、できた庵が兵庫大仏の能福寺で、西暦805年のことである。

平安時代の終わり頃に平清盛が登場する。当時の中国の大きな船は、博多までしか入れず、清盛は日宋貿易を進めるため、大輪田泊を拡張整備した。

当時の大輪田泊は、今の清盛塚の前の兵庫運河の入り口の辺りで、そこは「松原」と呼ばれる水深が非常に浅い砂浜だった。

清盛は、水深の深い柳原の兵庫えびすの辺りに大輪田泊として整備したと言われている。また、風除けのため日本最初の人工島「経ヶ島」を造成した。甲子園球場の十二、三個分の大きさと平家物語に見える。この経ヶ島の場所は不明だが「札場の辻」辺りという説がある。

江戸時代には地続きの状況になり、ここの地名「島上町」がその名残と言われる。



大輪田泊

3. 兵庫津

兵庫津の今の町並みのほとんどは、「兵庫城」を中心に造られた。兵庫城は、織田信長の命により1580年に築城された。因みに本能寺の変は1582年6月2日。

兵庫周辺は、摂津・有岡城の荒木村重の弟が花隈城に拠り守っていたが、石山本願寺攻めの時に村重が謀反を疑われ、花隈城も攻め滅ぼされた。その時に信長が池田恒興に命じて兵庫城を造らせた。その三男が池田輝政で、後の姫路城城主であ

る。

神戸中央市場前のショッピングセンター建設時に発掘調査が行われ、元禄絵図（別図：10頁）のとおり石垣が確認された。兵庫城は、江戸時代に引き継がれ、兵庫のまちが形成されてきた。



姿を現した兵庫城

元禄絵図では、都賀堤（とがのつつみ）という城下町を囲う堤があり、兵庫津を通過する西国街道の北側の湊八幡宮の横に湊口惣門が、西では柳原えびすの前に惣門があり、これらは兵庫津の出入り口であった。

現存の福海寺、福厳寺、能福寺、真光寺など、ほぼ同場所に建立されていた。

絵図の兵庫城の北にあるT字型の舟入場は、「内海」と呼ばれたところ。北前船から荷物を積み替えて、京、大阪へ運んだ渡海船の船溜まりである。現在は、北側が埋められ、新川運河の北の入り口になっている。

4. 江戸時代の兵庫津

兵庫津における最大の船持は北風家で、北風彦太郎が、1639年に、加賀藩の用命で加賀から米100石を大阪まで運んだのが北前船のはしりと言われる。

河村瑞賢（幕府の命で）による東廻り航路・西廻り航路の整備が1671年と1672年。その30年も前、日本海を小さな船で、命運をかけた航海だったと思われる。

運搬船は他に菱垣廻船、樽廻船がある。樽廻船の荷は主に灘の酒で、品質保持のため短期間で運び、需要が多かった。

兵庫は、瀬戸内海という主要航海路の出入り口で、都に近い好立地条件にあった。

武家諸法度では、西国の大大名は、紀伊半島を船で越えることを禁止されていた。このため、兵庫で船を降り、陸路で江戸へ向かうことから、兵庫には西国の大大名の宿舎「本陣」が置かれた。

また、領地から運んだ米を、大阪の堂島で現金

化するため為替機能を持った本陣、兵庫特有の「浜本陣」が置かれた。黒田藩、や薩摩藩を初めとした西国の大名を担当する浜本陣が兵庫城の南のエリアに全て置かれていた。

高田屋嘉兵衛翁関連を少しお話するが、司馬遼太郎の小説『菜の花の沖』に出てくる嘉兵衛がお世話になった「北風の湯」は、この会場前の本町公園の向こう側になる。

嘉兵衛の「辰悦丸」は、1,500石船で現在のトン数換算では230トン船に過ぎないが、当時では、日本最大の北前船であった。



北前船

5. 松右衛門帆

北前船の運送能力を高めたのが、有力な船主でもあった高砂出身の工楽松右衛門である。それまでの帆は耐力が弱く、これを、播州の綿を用い、通常よりも太い糸で、倍の織幅にして編み、それを16列とか20列で帆を作った。非常に頑丈で、雨や強風でも帆を下ろさずに航海できるという、いわばエンジンの改革をした。

この製法を一般にも開放したため、瞬く間に広がり全国の大規模の帆掛け船は“松右衛門帆”を使うことになった。

この帆一枚の価格は、現在の金額で6,000万円から1億円位になる。北前船の価格が六、七千万円から二億五、六千万円であり、その3分の1ぐらゐ帆が占めたことになる。

これにより、画期的に海運業が発展し、幕末にかけて北前船の隆盛を迎えた。

松右衛門は、嘉兵衛より26歳年上で、函館港の突堤や択捉の防波堤、高砂港の突堤、鞆の浦の突堤なども築造し、嘉兵衛と並ぶ有力な兵庫商人であった。



高砂市の
工業松衛門邸

おわりに

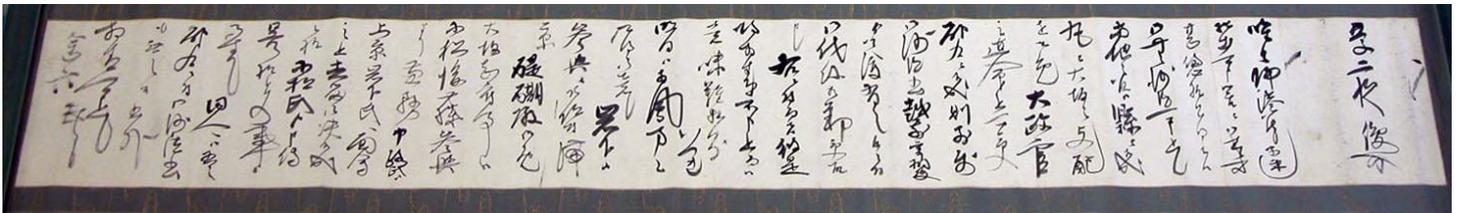
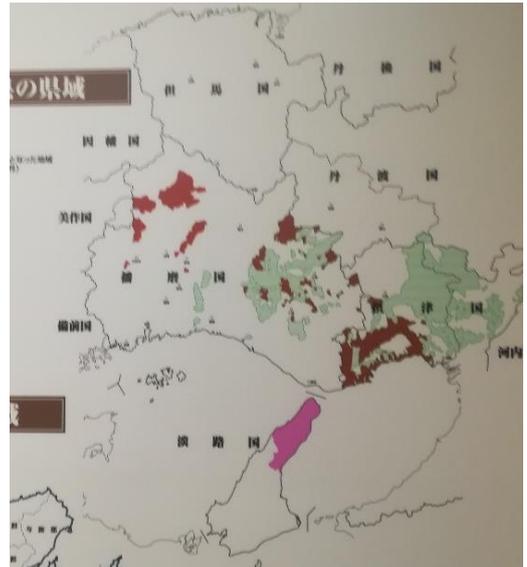
兵庫の首都の期間は、福原遷都の6カ月のみで、京都よりも圧倒的に短いのですが、兵庫は京都より長い1300年の歴史があります。このまちを我々は『歴史の宝庫』と呼び、また戦災も大震災にも耐えたこの会場の建物を「奇跡の建物」と呼んでいます。

今後とも、この兵庫のまち、そして昭和2年にできたこの建物を楽しんでいただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

～第1次兵庫県の県域（兵庫県公館県政資料館展示資料より）

赤 明治元年5月の区域 緑 明治4年4月の区域

ピンク 稲田騒動により編入された区域 明治3年10月～4年11月



伊藤博文の書状（兵庫県公館県政史料館蔵）

：高松講師による解説より

書状は、兵庫県ができて3日目の慶応4年5月26日に、伊藤俊輔（博文）から部下の東條慶二宛に出されたものである。

『兵庫県ができてよかった。なぜなら、大阪に併合される所だった。大阪は公家の醍醐忠順が知事で、副知事は薩摩藩の小松帯刀、土佐藩の後藤

象二郎が任命されていた。

俊輔は26歳で上役の後藤、小松の下でなく、一国一城の兵庫県の采配を振るうことになり本当によかった』

といった趣旨の文章が書かれている。

よみがえる兵庫津連絡協議会会則、講師紹介

《よみがえる兵庫津連絡協議会 会則 一抜粋》

(目的)

- 第3条 かつて兵庫の歴史や経済を支えてきた私たちのまち、兵庫津。本会は、「よみがえる兵庫津！」を合言葉に、人が訪れ、活気と魅力ある元気なまちを目指すことを目的とする。

(事業)

- 第4条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 兵庫津周辺における地域の歴史と成りたちについて調査・研究し、特性を生かした活力あふれるまちにする。
 - (2) 兵庫津ブランドの創出と浸透を図り、地域愛に溢れたまちにする。
 - (3) かつて地域、日本を支えた兵庫商人の復活を目指す。
 - (4) その他、本会の目的達成のため必要な事業。

(平成22年2月17日制定)

《講師：歴史ソムリエ 高松 良和氏》

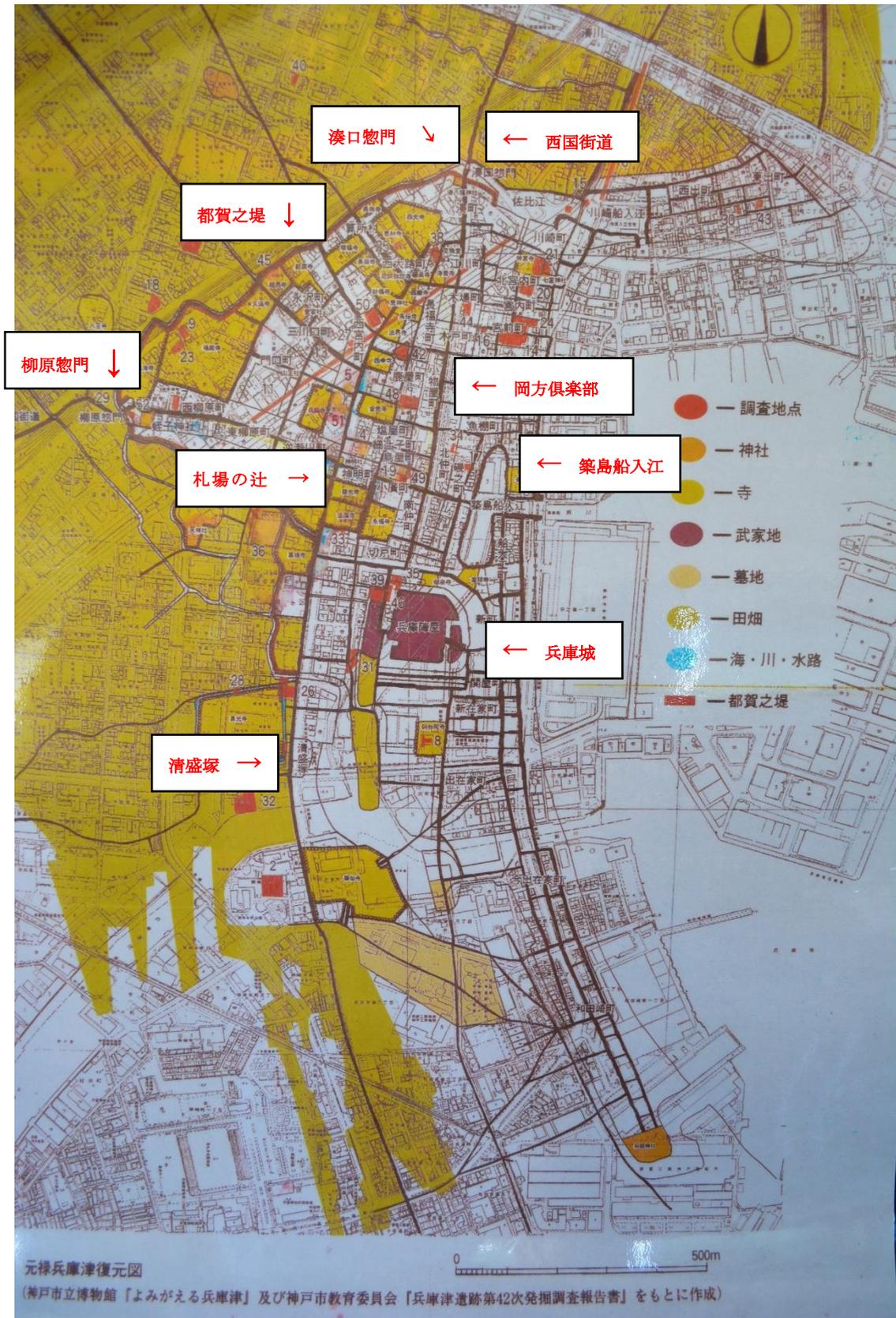
2011年 大和ハウス 退職

2012年 NHK大河ドラマ「平清盛」の関連施設・歴史館で歴史ガイドを担当

2013年～岡方倶楽部を拠点に、歴史ガイドや講演を実施

岡方倶楽部の紹介のため「岡方倶楽部日記」を毎週執筆中

元禄兵庫津復元図



講演2 『高田屋嘉兵衛翁と兵庫津』

講師 高田屋嘉兵衛翁顕彰会
相談役 高田 耕作氏



はじめに

高田屋嘉兵衛翁の生誕地、淡路島からやってきました高田です。

江戸時代の後期、嘉兵衛翁が淡路から出てきて、本店を置いたこの兵庫のまちで、歴史ある建物で嘉兵衛翁の話をさせていただく機会をいただきありがたく思います。

1. 兵庫と嘉兵衛翁

(1) 船乗り修行と兵庫のまち

嘉兵衛は250年前、淡路の都志で農家の長男として生まれ、12歳の頃から、漁師や商売の手伝いしていた。

都志では瓦生産が盛んで、それを瓦船で兵庫や大阪へ運んでいた。嘉兵衛は商売の仕入れで、瓦船に便乗して兵庫のまちに来ていた。

若い嘉兵衛は、船乗りの手伝いもしながら、操船を覚え、また明石海峡の激しい潮流から、船や風、潮のことを学んでいった。

兵庫のまちには、嘉兵衛の親戚の堺屋喜兵衛が船乗り（船を持った船頭）として活躍していた。22歳になった嘉兵衛は淡路を飛び出し、堺屋で船乗りになった。嘉兵衛の嘉蔵も3年ほど前から堺屋で働いていた。

(2) 兵庫のまちの人々

当時の兵庫で嘉兵衛に影響を与えたのが、北風荘右衛門と工楽松右衛門であり、嘉兵衛はこの方達の薫陶を受け成長していった。

北風家の「北風遺事」によると、嘉兵衛は北風荘右衛門貞幹に大きな影響を受けて、箱館のまちづくりで北風家の手法を取り入れたようだ。

また、嘉兵衛が箱館の港を造る際、工楽松右衛

門に協力依頼し築造した。松右衛門は、1802年にエトロフ島のアリモイに港の整備もしている。

嘉兵衛は、松右衛門の力に頼ることが多かったようで、嘉兵衛の家の子孫は「松右衛門さんに足を向けて寝るな」との言伝えが残っている。

嘉兵衛は、こうした兵庫のまちや兵庫の人々に大いに刺激されて、人としての生き方を身につけていった。

2. 嘉兵衛翁の事跡

(1) エトロフ島の開拓

船乗りになり数年で船頭を任されるが、それだけでは満足せずに、自分の船を持つようになるが、その資金の出所はよく分からない。

また、1,500石船という当時最大級の船を造ったいきさつ等、よく分からないことが多い。いずれにしても、その1,500石積みの辰悦丸で北海道を目指した。1797年のことだった。



高田屋の船

その頃、幕府は東蝦夷地（北海道の太平洋岸）を松前藩から取り上げ、直接開拓しようとしていた。

嘉兵衛は、箱館で幕府役人の高橋三平と知り合い、幕府の蝦夷地開拓、アイヌ対策、ロシア対策の話を聞き、蝦夷地への熱い思いに同調し、幕府に協力していくことになる。

厚岸では、幕府の役人近藤重蔵からエトロフ島開発のため、安全な航路開拓を依頼される。この航路は、潮が複雑に入り込み常に濃霧に悩まされるという、日本中で最も危険な海域である。

嘉兵衛は、事前の念入りの調査のもと、エトロフへの直行を避け、霧の中をまずは北上した後に東へ舵を切り無事にエトロフ島に着く。

エトロフ島への航路開拓に成功した嘉兵衛は、その後も幕府の蝦夷地開拓に協力していく。

島に住むアイヌの人たちとは幕府の方針どおり十分な協調を図って、スムーズに開拓が進んでいく。この島は、サケとかマス等海産物の宝庫で蝦

3. 兵庫と嘉兵衛翁

(1)高田屋の欠しゝ処分

ロシアから帰った嘉兵衛は、体調が余りすぐれず、1818年、50歳の時に弟の金兵衛に店を譲って引退する。

金兵衛の時代になると箱館に本店を移し、兵庫と大阪、江戸を支店として経営を行った。

その後、幕府もロシアから侵攻の恐れがなくなり、蝦夷地を元の松前藩に返すことになる。

そうすると、今度は高田屋が松前の商人達から疎んじられる対象になり、松前商人の讒言により高田屋は取りつぶしにあってしまう。松前藩では、その前にも飛騨屋久兵衛や村山伝兵衛といった有力商人が同じように失脚させられている。

幕府の徹底がなければ、高田屋が取りつぶしにあうことはなかったのではないかと考える。

(2) 本店跡・七宮神社など

大震災の後、現在の西出町1丁目に本店跡の石碑が置かれているが、昭和の初めには本店の場所がわからなくなっている。旧入江小学校（注：現在は湊小学校に統合）にも顕彰碑が建っていたが、その辺りに本店があったのではないかと。

西出町にある七宮神社を嘉兵衛は大変崇敬し、納も数々行い資料関係も多数あったようだが、戦災ですべて焼失している。



『高田屋嘉兵衛と西出町』 (本店の地説明文の抜粋)

嘉兵衛が本店の地に定めた西出町は、ふるくは佐比江の入り江が深く入り込んだ浜辺でしたが、江戸時代の前期に兵庫津の出町として町場が形成され、北前船などの廻船がさかんに兵庫津へ寄港するようになると、「佐比江の入り江」は船入り江として整備され、西出町は東出町とともに問屋・船大工などの町として活況を呈するようになりました。

かつて船入り江をのぞんで高田屋の本店・倉庫などが立ち並んでいたと、古老の話が残されています。

淡路の地元でも、幕府からの処分を受けた時、三日三晩かけて資料は焼かれたと伝わっている。

このようなことで、一次資料は、ほとんど残っていないので、当時の実像になかなか迫ることができない。

幕府とか、ロシアに残る資料などを調べながら、嘉兵衛翁の偉大さを検証しているところである。

4. 司馬遼太郎の嘉兵衛翁評

最後に、作家の司馬遼太郎氏が、1985年洲本市民会館の講演で言われた高田屋嘉兵衛翁の評を紹介します。

「人の偉さは測りにくいものですが、その尺度を英知と良心と勇氣ということにして、江戸時代を通じて誰が一番偉かったか。学者や大名、発明家などいろいろ出ましたが、私は、高田屋嘉兵衛だと思います。それも二番目が思いつかないくらいに偉い人だと思います。」「今生きていても、世界のどんな舞台でも通用する、世界史的に見ても偉い人でした。」

本日はどうもありがとうございました。

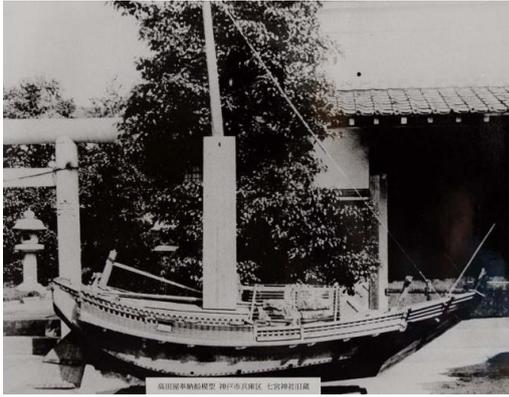


高田屋嘉兵衛 顕彰碑（竹尾稲荷神社）

『高田屋嘉兵衛顕彰碑』 (竹尾稲荷神社の顕彰碑説明文の抜粋)

この碑は昭和28年(1953)入江育友会立上り入江婦人会これに呼応し当時の原口神戸市長題字を享け入江小学校門脇に建立、平成5年11月吉日当境内に移設す。

(注) 現在の竹尾稲荷神社は「本店の地」碑の西向

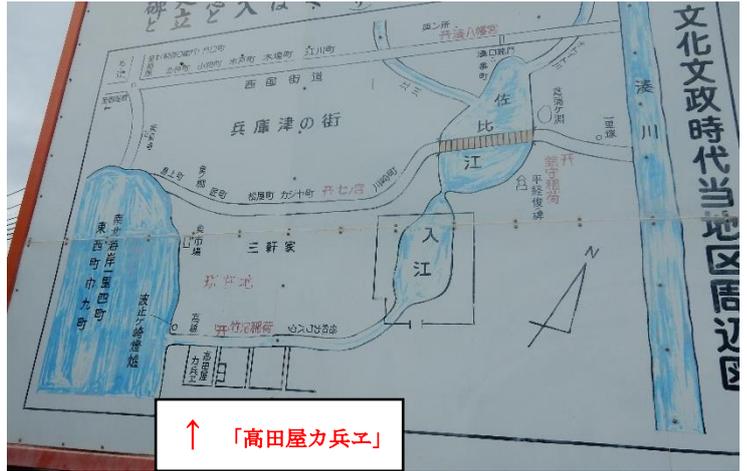


七宮神社奉納模型船

七宮神社 由緒沿革 (関係分)

寛政11年(1797年)には、淡路島五色町出身で、西出町に住居を構える豪商高田屋嘉兵衛翁が辰悦丸を含む持ち船3隻の模型を奉納し航海安全を祈願、それ以降海上業者は七宮神社を参拝するようになった。

しかし戦災により奉納された船はことごとく消失。



文化文政時代当地区周辺図 (竹尾稻荷神社)

高田屋嘉兵衛翁顕彰会、講師紹介

《高田屋嘉兵衛翁顕彰会 規約 一抜粋一》

(目的)

第3条 本会は五色町が生んだ江戸時代後期の偉人、高田屋嘉兵衛翁を顕彰し、もって町づくりに寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 高田屋嘉兵衛翁の顕彰に関する事業
- (2) 高田屋嘉兵衛翁の生涯とその偉績に関する資料の収集、保存並びに調査研究
- (3) 高田屋嘉兵衛翁の顕彰を通しての町づくりに関する事業
- (4) ロシアとの民間交流及び北方領土返還に関する事業
- (5) その他本会の目的達成のための事業

(昭和54年4月1日制定)

《講師：相談役 高田 耕作氏》

- 2007年 洲本市・情報政策部長 退職
- 1988年 高田屋嘉兵衛翁顕彰会理事
- 2004年 高田屋嘉兵衛翁顕彰会理事長
- 2018年 高田屋嘉兵衛翁顕彰会相談役



高田屋顕彰館(洲本市五色町)と展示の高田屋嘉兵衛翁肖像画 松井家(兵庫西出町)蔵

IV 広 報 コ ー ナ ー

初代兵庫県庁舎ナビ(神戸県民センター)

古来より日本の代表的な港として栄えた兵庫津。

1868年（慶応4年）、ここに初代県庁舎が設置され、兵庫県が始まりました。

2018年、兵庫県が誕生から150周年を迎えることを記念して、初代県庁舎の往時の姿をARで体験し、兵庫県の魅力を再発見できるアプリをつくりました。

兵庫五国 兵庫県政 150周年記念アプリ
初代兵庫県庁舎ナビ

HYOGO 150th Anniversary
祝！兵庫津 日本遺産認定

古来より日本の代表的な港として栄えた兵庫津。
1868年（慶応4年）、ここに初代兵庫県庁舎が設置され、兵庫県が始まりました。
2018年、兵庫県が誕生から150周年を迎えることを記念して、
初代県庁舎の往時の姿をARで体験し、
兵庫県の魅力を再発見できるアプリをつくりました。

AR以外にも・・・

- スマホ
※指定の観覧中心内容も撮影
いただけます！
- ほぼ全ブラウザ対応
※お手持のスマートフォン
で観覧いただけます！
- スマホ対応
※お手持のスマートフォンを
使って観覧いただけます！

このQRコードで
ダウンロード
できます。(無料)

神戸県民センター ホームページの「ナー」からダウンロードできます。

【お問い合わせ先】
兵庫県神戸県民センター 県民交流課 企画課 (産案・楽しみまわすづくり担当)
TEL: 078-361-8628 mail: kok12@pref.hyogo.lg.jp
http://www.pref.hyogo.lg.jp/kok12/

スタンプを集めてみよう！
ポイントを持ってマーカーを積み込んでね。
五国を集めて「おはつソフトフレーム」もろろあそび。

チラシのQRコードが読み取れない場合は、次の県民センターホームページをご覧ください。

[tps://web.pref.hyogo.lg.jp/kok12/syodai-kentyousya-ar.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/kok12/syodai-kentyousya-ar.html)